

## 2023 年度 所員業績リスト

### ■氏家悠太

#### <論文発表> (査読あり)

Itoi, C., Ujiie, Y., Ooishi, Y., & Kashino, M. (in press). The relationship between subjective difficulty in interoceptive processing and accuracy of heartbeat perception in autistic individuals. *Discover Mental Health*, 4(1), 13. <https://doi.org/10.1007/s44192-024-00065-6>

Tiippana, K., Ujiie, Y., Peromaa, T., & Takahashi, K. (2023). Investigation of Cross-Language and Stimulus-Dependent Effects on the McGurk Effect with Finnish and Japanese Speakers and Listeners. *Brain Sciences*, 13(8), 1198. <https://doi.org/10.3390/brainsci13081198>

#### <学会発表>

Ujiie, Itoi, & Takahashi, (2024). Age-Related Changes in Interoceptive and Exteroceptive Sensitivity: Results from a Cross-Sectional Questionnaire Study. The 2024 SPSP Annual Convention (Research Spotlight). (SPSP2024)

Ujiie & Takahashi, (2023). The effect of wearing a face mask on lip-reading and audiovisual speech perception. The 45th European Conference on Visual Perception (ECVP2023).

Itoi, Oishi, Ujiie, & Kashino. (2023). The characteristics of interoceptive processing in autistic people examined by subjective and objective tests of interoceptive accuracy. The 46<sup>th</sup> annual meeting of the Japan Neuroscience Society.

Tiippana, Ujiie, Peromaa, & Takahashi. (2023). Comparing the McGurk effect across Finnish and Japanese talkers and listeners. IMRF 2023 meeting, Brussel (Jun 2023)

鈴木萌々香・氏家悠太・高橋康介. (2023). 連続提示顔の変形効果における偏心度とサイズの影響, 日本基礎心理学会第 42 回大会, 2023 年 12 月

糸井千尋・氏家悠太・大石悠貴・柏野牧夫. (2023). 日本語版 Interoception Sensory

Questionnaire (ISQ) と心拍知覚課題の精度との関連性の検討-自閉スペクトラム症者群と定型発達者群における比較検討, 日本心理学会第 87 回大会, 2023 年 9 月

高橋康介・氏家悠太・吉村直人・善本悠介・武富礼衣. (2023). 脳内将棋盤から探る視覚イメージの多様性, 日本心理学会第 87 回大会, 2023 年 9 月

■江川隆男

<論文>

「道徳的であるとはいかなることか?——〈内在性の問題〉への前哨」、『現代思想 特集=ビッグ・クエスチョン 大いなる探究の現在地』2024 年 1 月号所収、青土社、47-53 頁。

■大石幸二

<論文>

大石幸二・木下愛 (2023). 教師による授業内対話が児童の対人意欲と学習意欲に及ぼす影響に関する予備的研究 人間関係学研究, 28, 45-56. (2023 年 12 月 28 日発行)  
(査読あり)

和田恵・荻野梨紗子・大石幸二 (2023). 自閉スペクトラム症児における命題的心理化を促進するための言語的理由づけの検討 人間関係学研究, 28, 23-31. (2023 年 12 月 28 日発行) (査読あり)

<著書> (翻訳を含む)

大石幸二 (2024). 公認心理師の必須技能 (コンピテンス) を身につける, 困難ケース/緊急ケースへの出会いに対処する 小関俊祐・大石幸二・嶋田洋徳・山本淳一責任編集, 事例で学ぶ教育・特別支援のエビデンスベイスト・プラクティス 金剛出版. (2024 年 3 月 25 日刊行)

大石幸二編著 (2024). 通常学級における特別支援・インクルーシブ教育推進のための学校改善 学苑社. (2024 年 1 月 25 日刊行)

<学会発表>

下山真衣・小林愛・堀知音・堂山亜希・大石幸二 (2023). 知的障害のある生徒の自立活動

における心理的な安定に関する社会モデルの検討 日本特殊教育学会第 61 回大会（横浜国立大学；ハイブリット開催）。自主シンポジウム I-3. 【指定討論】

大石幸二 (2023). 教師による授業内対話の改善をめざす全学校規模の介入—予備的研究：hyper-QU を用いた学校生活意欲の下位尺度（対人関係・学業達成）の前後比較—. 日本特殊教育学会第 61 回大会（横浜国立大学；ハイブリット開催）。ポスター研究発表 P1B-15.

<単独発表>

和田恵・大石幸二 (2023). 高機能自閉症児における命題的心理化の促進（3）—言語学的能力と具体的介入を通じた心情推察評価の検討—. 日本特殊教育学会第 61 回大会（横浜国立大学；ハイブリット開催）。ポスター研究発表 P3C-23. 【連名発表】

竹森亜美・大石幸二 (2023). 学齢期の自閉スペクトラム症児における動作模倣の効果検証—振り返りによる言語化とピアへの社会的行動に焦点を当てて—. 日本特殊教育学会第 61 回大会（横浜国立大学；ハイブリット開催）。ポスター研究発表 P3C-3. 【連名発表】

<取材・報道>

大石幸二 (2023). いま求められる「実感」と「体感」と「対話」にもとづく学び 全自者協ニュース, 62, 巻頭言, 全日本自閉症支援者協会. (2023 年 11 月 30 日発行)

■小口孝司

<学術論文> (査読あり)

Kawakubo, A. & Oguchi, T. (2023). Salon nail care with superficial self-disclosure vitalizes psychological state. *Frontiers in Psychology*. 14:1112110.

Kawakubo, A. & Oguchi, T. (2023). Looking Back on Your Travel Memories? Effects of Memorable Tourism Experiences on Well-being via Daily Recovery Experiences. *Tourism Analysis*, 28 (1), 13-27.

宮川えりか・小口孝司 (2023). 若年正社員におけるリカバリー経験のプロセスに関する探索的検討 産業・組織心理学研究, 36 (2), 143-156.

<国際学会発表> (査読あり)

Kawakubo, A., Mitsubori, N., Hirabayashi, M., & Oguchi, T. (2023). The Influence of crowding, popularity, and time-monetary costs on theme park experience and satisfaction. *28th Asia Pacific Tourism Conference*, Chiang Mai, Thailand. <Best Paper Award>

<国内学会発表> (査読なし)

川久保惇・小口孝司 (2023). 収入が増えるとネガティブ感情は低下する？ 日本心理学会第 87 回大会, 神戸国際会議場 (9 月)

中島実穂・小口孝司 (2023). 日本人はどのように変革的旅行経験を得るか？  
—テキストマイニングによる検討— 日本観光研究学会第 38 回大会, 文教大学 (12 月)

<書籍>

小口孝司 (2023). 心理学の超きほん 永岡書店 (監修)

<その他> (査読なし)

小口孝司 (2023). 「旅」が個人の能力を高める？社会をも活性化する「旅」の心理学  
大学学部研究会 講義ダイジェスト 2024, 東進本部, 76 - 79.

Kawakubo, A. & Oguchi, T. (2023). Manicure can boost women's psychological well-being, study suggests. PsyPost, [https://www.youtube.com/watch?v=pJU9\\_8o4gn8](https://www.youtube.com/watch?v=pJU9_8o4gn8)

■岡島純子

<論文>

【原著】

Matsunaga M, Okajima J, Furutani K, Kusakabe N and Nakamura-Taira N (2024)  
Associations of rumination, behavioral activation, and perceived reward with mothers' postpartum depression during the COVID-19 pandemic: a cross-sectional study. *Front. Psychiatry* 15:1295988. doi: 10.3389/fpsyt.2024.1295988.

吉次遥菜・岡島純子・加藤海咲・岡島義 (2023) 子育て版心理的柔軟性尺度の信頼性・妥当性の検討、東京家政臨床センター紀要、第 24 集、27 - 38.

【総説】

岡島純子 神経発達症児に対する SST およびペアレント・トレーニング、東京家政臨床センター紀要、第 24 集、1 - 2.

<書籍>

岡島純子 (2024) 「迷信 2」、「迷信 35」、スティーブン・ハップ・ジェレミー・ジュエル・佐藤美幸 (監訳)・佐藤寛 (監訳)、『本当は間違っている育児と子どもの発達にまつわる 50 の迷信』、金剛出版 pp.29-34, pp.174.

岡島純子 (2024) 「特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対する心理・行動面の指導と支援の実際」一般社団法人公認心理師の会教育・特別支援部会 監修『事例で学ぶ教育・特別支援のエビデンスバイスト・プラクティス』金剛出版 pp.136-141.

<学会発表>

岡島純子・岡島義 2013 日本語版 Parental Acceptance and Action Questionnaire (PAAQ-J) の信頼性と妥当性の検討、日本認知・行動療学会第 49 回大会論文抄録集、pp.249-250.

吉次遥菜・岡島純子・大谷良子・作田亮一 2023 ASD 児の精神症状と自閉症的行動特性のタイプの差異が その親の精神的健康度や育児ストレスに及ぼす影響、日本認知・行動療学会第 49 回大会論文抄録集、pp.214-215.

栗原珠涼・岡島純子・松永美希 2023 自閉スペクトラム症児・者の青年期のきょうだいの適応 ～親の障害受容度と養育態度が与える影響～、日本認知・行動療学会第 49 回大会論文抄録集、pp.220 - 221.

平松ひかり・岡島純子・松永美樹 2023 高校生の被援助志向性と援助要請スキルが抑うつに及ぼす影響の検討—援助者との関係性に注目して—、日本認知・行動療法学会第 49 回大会論文抄録集、pp.284-285.

■温文

<論文発表> (査読あり)

Wen, W., Chang, A. Y., & Imamizu, H. (2024). The sensitivity and criterion of sense of agency. Trends in Cognitive Sciences. <https://doi.org/10.1016/j.tics.2024.03.002>

Nobusako, S., Wen, W., Osumi, M., Nakai, A., & Morioka, S. (2023). Action-outcome regularity perceptual sensitivity in children with developmental coordination disorder. *Journal of Autism and Developmental Disorders*. <https://doi.org/10.1007/s10803-023-06144-x>

Wen, W., Charles, L., & Haggard, P. (2023). Metacognition and sense of agency. *Cognition*, 241, 105622. <https://doi.org/10.1016/j.cognition.2023.105622>.

温文, 濱田 裕幸, 鈴石 陽介, Acer Chang. (2023). 運動主体感は人間にとって何を意味するのか?. *基礎心理学研究* 第 42 卷 1 号 (特集号「身体・運動・行為の基礎心理学」). <https://doi.org/10.14947/psychono.42.7>

Hamada, H., Wen, W., Kawasaki, T., Yamashita, A., & Asama, H. (2023). Characteristics of EEG power spectra involved in the proficiency of motor learning. *Frontiers in Neuroscience*, 17:1094658. <https://doi.org/10.3389/fnins.2023.1094658>

<学会発表>

Wen, W., Mei, J., Aktas, H., Chang, A., Takada, K., Suzuishi, Y., and Kasahara, S.: Control over self and others' face: Exploitation and exploration. 11th MindBrainBody Symposium (MMB Symposium 2024), Germany, March, 2024.

Wen, W., Aktas, H., Mei, J., Chang, A., Takada, K., Suzuishi, Y., and Kasahara, S.: Is It Me or Is It You? Disassociated Agency and Ownership in a Face and Action Mixing Paradigm. 5th Body Representation Network Conference 2023 (BRNet5), Spain, September, 2023.

鈴石 陽介, 温文, Acer Chang, 日高 聡太: "定常状態触覚誘発電位を用いた自己生成刺激に対する注意が触振動知覚に及ぼす影響の検討", 第 42 回基礎心理学大会, December, 2023.

■加藤千恵

<学会発表>

加藤千恵(2023). 「姪女考——煉丹術與文學」 經典内外：華文文學與文化國際學術研討會 (2023年4月1日～3日 立教大学新座キャンパス)

<その他>

加藤千恵(2023). コラム執筆「ひょうたんの中の天地—古代中国の長生思想と自然観」 (小峯和明編『日本と東アジアの〈環境文学〉』 勉誠社、2023年、481-483頁)

■ 白井述

<論文>

Imura, T., Kondo, T., Shirai, N., & Nakauchi, S. (2023). Children's preferences of the color composition of art paintings. *Infant and Child Development*. 32(5), e2450, 1-9. <https://doi.org/10.1002/icd.2450> (査読あり)

<学会発表>

白井述 (2023) 視覚発達研究の新しい形 —リモートオンデマンド実験の試み—. 2023 年度日本基礎心理学会第 1 回フォーラム「心的過程を測るための新しい着眼点・方法論」, 専修大学神田キャンパス (ハイブリッド形式), 2023 年 6 月 4 日【招待講演】

白井述 (2023) 若年者群を対象とした行動研究実践 —選好注視法実験の遠隔実施の試み—. 日本認知心理学会第 21 回大会 ベーシック&フロンティアセミナー「多様な発達段階を対象とした知覚・認知研究を考える」, オンライン開催, 2023 年 6 月 30 日【招待講演】

白井述 (2023) タブレット端末を使用したオンデマンド視覚発達実験 (於: ラウンドテーブル 3 BOLD2023 非対面調査、こんなことができます), 日本赤ちゃん学会第 23 回学術集会, 千里ライフサイエンスセンター, 2023 年 8 月 5~6 日【話題提供者】

佐多美咲・小泉直也・白井述・伊村知子 (2023) 空中像提示されたバーチャルペットに対する心的状態の推測 —4~9 歳の子どもと大人の比較, 日本赤ちゃん学会第 23 回学術集会, 千里ライフサイエンスセンター, 2023 年 8 月 5~6 日

白井述 (2023) 光学的流動に基づく自己運動知覚の発達 (話題提供者: OS 1A3 身体運動に関する認知科学研究). 第 28 回日本バーチャルリアリティ学会大会, 東京たま未来メッセ, 2023 年 9 月 12 日【招待講演】

山中七菜子・大塚由美子・加藤正晴・白井述 (2023) Mooney 顔知覚の発達過程の検討, 日本基礎心理学会第 42 回大会, 豊橋技術科学大学, 2023 年 12 月 1~3 日

櫻井心暖・伊村知子・山中七菜子・村田佳代子・白井述 (2023) 乳児の表情選好に目と口の及ぼす影響, 日本基礎心理学会第 42 回大会, 豊橋技術科学大学, 2023 年 12 月 1~3 日

村山みせり・山中七菜子・村田佳代子・白井述 (2023) 幼児・児童におけるアニメキャラクターの表情認識, 日本基礎心理学会第 42 回大会, 豊橋技術科学大学, 2023 年 12 月 1 ~3 日

## ■滝浪佑紀

### <論文>

滝浪佑紀 「出発と身構え——K-POP ミュージックビデオの情動分析」『立教映像身体学研究』11号、2024年、47-66頁。

滝浪佑紀 「認めることへの会話——小津安二郎戦中作品と抑制の美学」『立教映像身体学研究』11号、2024年、67-88頁。

### <新聞書評>

滝浪佑紀、平山周吉著『小津安二郎』、『十勝毎日新聞』2023年6月9日、『陸奥新報』2023年6月3日、『岩手日日新聞』2023年6月10日、『デーリー東北』2023年6月11日。

滝浪佑紀、前田啓介著『おかしゅうて、やがてかなしき——映画監督・岡本喜八と戦中派の肖像』、『陸奥新報』2024年3月16日、『福島民報』2024年3月16日、『島根日日新聞』2024年3月21日、『河北新報』2024年3月24日、『四国新聞』2024年3月24日

## ■都築誉史

### <論文>

都築誉史 (2023). 多肢選択意思決定における多様な認知バイアスに関する実験心理学的検討 基礎心理学研究, 42, 122-127. (基礎心理学会第 41 回大会での講演論文)

### <学会発表> (国際学会)

Ogawa, S., & Tsuzuki, T. (2023). Effects of differences in cognitive processing on Choice Blindness in multi-alternative decision making. *The 64th Annual Meeting of the Psychonomic Society*, 3046, San Francisco, USA (November 17, 2023). (査読あり)



Tsuzuki, T. (2023). The influence of maximizing tendency and numeracy on the attraction and compromise effects in multialternative decision making. *Society for Judgment and Decision Making Annual Conference 2023*, San Francisco, USA (November 19, 2023).  
(査読あり)

<学会発表> (国内学会)

根本啓伍・都築誉史 (2023). BIS/BAS がサンクコスト効果に与える影響 日本心理学会第 87 回大会, 神戸 (2023 年 9 月 15 日)

小川勢太・都築誉史 (2023). 多肢選択意思決定における認知処理過程の違いがチョイスブラインドネスの生起に及ぼす影響 日本心理学会第 87 回大会, 神戸 (2023 年 9 月 17 日)

都築誉史 (2023). 多肢選択意思決定における類似性効果の再現性に関する疑義 日本心理学会第 87 回大会発表論文集, 神戸 (2023 年 9 月 17 日) .

<その他>

都築誉史 (2024). 個人差要因が多肢選択意思決定における認知バイアスに及ぼす影響の検討 立教大学学術推進特別重点資金 (立教 SFR) ・個人研究・2023 年度研究成果報告書

## ■長門洋平

<著書 (分担執筆)>

長門洋平「渡辺裕『感性文化論——〈終わり〉と〈はじまり〉の戦後昭和史』、金子智太郎編著『音の本を読もう——音と芸術をめぐるブックガイド』ナカニシヤ出版、2024 年、82–85 頁。

## ■宮川麻理子

<論文>

宮川麻理子、「第二次世界大戦下の舞踊家たちの活動——江口博旧蔵資料から (Regards sur les danses au Japon pendant la Seconde Guerre mondiale : de la collection d'Eguchi Hiroshi)」『江口博旧蔵資料から見る昭和日本のモダンダンス *À la recherche de la danse*

*moderne au Japon : Scènes de danse de l'ère Shōwa (1926-1989)*』編集・発行：早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点 令和 4-5 年度公募研究課題「江口博旧蔵資料にみる戦時下から戦後の舞踊」、2023 年 11 月、pp. 29-40（日仏語併記、査読なし）。

<研究会の開催・発表（海外）>

MIYAGAWA Mariko, « Regards sur les danses au Japon pendant la Seconde Guerre mondiale : de la collection d'Eguchi Hiroshi » (フランス語)、学術研究会「江口博旧蔵資料から見る昭和日本のモダンダンス Journée d'études « À la recherche de la danse moderne au Japon : Scènes de danse de l'ère Shōwa (1926-1989) »」、共催：早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点令和 4-5 年度公募研究課題「江口博旧蔵資料にみる戦時下から戦後の舞踊」（研究代表者：宮川麻理子）・パリ第 8 大学 MUSIDANSE 研究所「舞踊史及び舞踊人類学研究会」、フランス国立舞踊センター(パンタン)、2023 年 11 月 22 日。

<学会発表（国内）>

宮川麻理子、「自己の身体に対する解像度を上げる——大野慶人の舞踏の稽古」（パネル「ままならない身体」をめぐる思考と実践）、『表象文化論学会第 10 回大会』東京大学駒場キャンパス、2023 年 7 月 9 日。

<研究会コメンテーター>

宮川麻理子、「帝国日本と冷戦下アジアの文化権力——崔承喜舞踊の表象と交差するイデオロギー——」第 3 回研究会、(國吉和子「日本近代舞踊と崔承喜——その受容と影響について」に対するコメント)、国際日本文化研究センター2023 年度共同研究会プログラム、オンライン、2024 年 3 月 2 日。

<その他>

宮川麻理子、「ダンスの領域を空中へ——カンパニーXY with ラシッド・ウランダン『メビウス』評」『日仏演劇協会会報』復刊 11 号、2023 年 5 月、pp. 46-48。

宮川麻理子、「三東瑠璃の 2020-2022 年度の活動について」『The Saison Foundation Annual Report 2022(2022 年度事業報告書)』公益財団法人セゾン文化財団、2023 年 10 月、pp. 36-37。

■宮本裕子

<学会発表>

宮本裕子「ピンク・エレファントと間テクスト性／Pink Elephants and Intertextuality」、日本アニメーション学会設立 25 周年記念第 25 回大会 with SAS、2023 年 8 月 19 日、横浜国立大学。

<書評>

宮本裕子「佐野明子、堀ひかり編著『戦争と日本アニメ 『桃太郎 海の神兵』とは何だったのか』、『アニメーション研究』第 23 巻 2 号、2024 年 3 月、47-49 頁。

<その他>

宮本裕子「ポール・テリーとテリートゥーン：黄金期を生き延びたコスト意識と「底流」の潜勢力」、MACC、2023 年 5 月 1 日、<https://macc.bunka.go.jp/1518/>。

宮本裕子「アニメーションと個人性——『君たちはどう生きるか』の個人的な鑑賞記」、『現代思想』2023 年 10 月臨時増刊号、28-33 頁。

宮本裕子「イメージ・ファンタジー・労働の二重性——ラルフ・バクシとランキン・バス社による『指輪物語』もののアニメーション」、『ユリイカ』2023 年 11 月臨時増刊号、123-132 頁。

■横山太郎

<著書>

横山太郎編、『わぎを伝える——能の技芸伝承の領域横断的研究』、法政大学能楽研究所、2024 年 3 月。

<論文>

横山太郎、能の初心者稽古におけるコミュニケーションを分析する——潜在的なわぎの伝承をめぐって、横山太郎編『わぎを伝える——能の技芸伝承の領域横断的研究』、pp. 162-200、2024 年 3 月。

林容市、横山太郎、客観的な動作分析からみたわぎ伝達の要因の検討——能楽師-学習者間の稽古のデータを踏まえて、横山太郎『わぎを伝える——能の技芸伝承の領域横断的研究』、

pp. 202-222、2024年3月。

<学会発表（国際学会）>

Yokoyama, Taro. "From Dream to Reenactment: The Multimodal Structure of Imagination in Kokaji and Hashitomi", Performing Intermedia in Japan, 2023-04-26, Stanford Humanities Center (USA).

<公開講演>

横山太郎、世阿弥能楽論におけるエコロジー、思考の種まき講座 29「能とエコロジー」(AICT 国際演劇評論家協会)、2024年3月24日、座・高円寺。

梶谷健三、廣瀬茂夫、大山容子、横山太郎 (司会)、トークセッション「大学のサークル活動における能・狂言」企画・司会、能楽学会第22回大会、2024年3月17日、法政大学。

宮本圭造、山中玲子、川口晃平、植朗子、横山太郎 (司会)、法政大学能楽研究所公開講座「アニメと能楽」ラウンドテーブル司会、2024年3月3日、法政大学。

横山太郎、観世清和、松岡心平、観世会能楽講座『鞍馬天狗』講師、2024年2月20日、観世能楽堂。

横山太郎、茂山千之丞、木ノ下裕一、公開講座「芸能の在る処——伝統芸能入門講座狂言編」講師、2023年11月16日、ロームシアター京都。

横山太郎、公開講座「半蔀」「安達原」講師、鏡仙会定期公演〈10月〉事前講座、2023年10月5日、鏡仙会能楽研修所。

横山太郎、公開講座「初心忘るべからず」を読み直す——わざの伝承現場と世阿弥の思想」講師、新座市内大学公開講座、2023年9月30日、立教大学。

横山太郎、解説「狂うことと舞うこと」(国立能楽堂5月普及講演『班女・貴婿』) 講師、2023年5月13日、国立能楽堂。